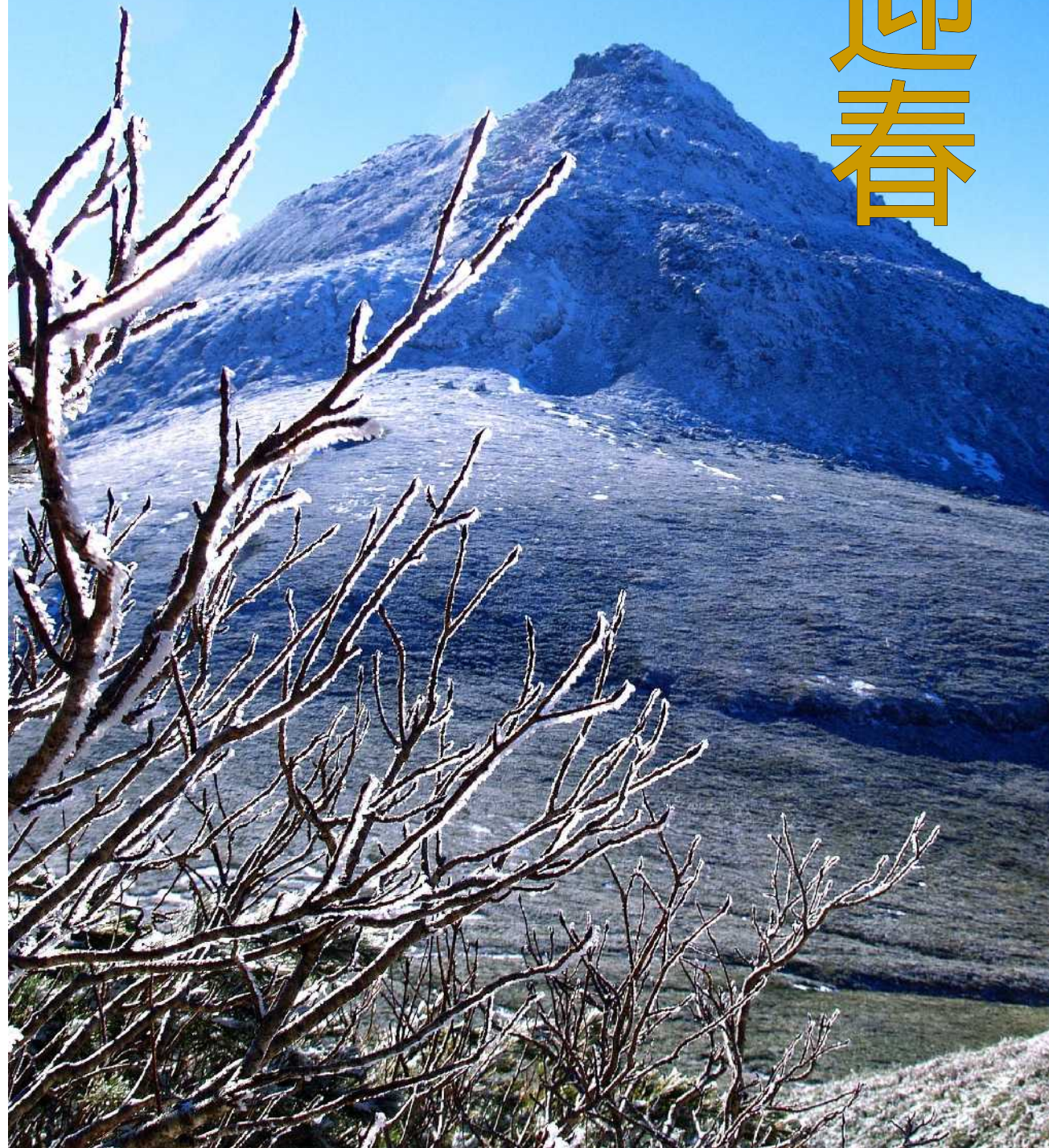


知床の森から

平成20年1月発行 第111号

迎春



写真：「初冬の羅臼岳」～三峯急登から～

北海道森林管理局 知床森林センター
〒099-4113 北海道斜里郡斜里町本町11番地
電話 0152-23-3009 FAX 0152-23-3160
ホームページ <http://www.shiretoko.go.jp/>



今年もよろしくお願いたします。

新年あけましておめでとうございます。

今年で「平成」になってから20年目となりました。

当センターも昭和63年3月1日が誕生日なので、今年の3月にめでたく「満20歳」を迎えることとなります。

知床森林センターとして、節目の年を迎えるに当たり、これまでを振り返ってみますと、昭和63年の組織設置以降、平成8年の一般会計組織への移行、平成16年3月末の抜本的改革の集中改革期間終了に伴う北見分局の廃止など様々な組織再編がありました。センター業務は「緑化思想の普及啓発」、「森林づくりに関する基礎的調査」、「知床の森林に関する様々な情報発信」という設置当時の三本柱に基づき様々な取り組みを行ってきました。

一方、知床の森林を取り巻く状況については、平成17年7月の世界自然遺産登録や地球温暖化・環境問題などから国民の「知床の森林」に対する関心と期待の高まりなど設置当時から大きく変化してきています。

このような中で、当センターでは、これまでも様々なイベントや調査活動などを通じて、国民参加の森林づくりに関する意識の醸成や緑化思想の普及啓発のための取り組みを行ってきましたが、今後はこれまでの経験と反省を活かすと共に、時代や国民のニーズに的確に対応し、各種イベントや調査活動等の取り組みを更に充実させていきたいと考えています。

特に今年は、現在ウトロ地区に建設中の「ボランティア等活動拠点施設」の効果的な活用や「知床永久の森林づくり協議会」による様々な仕組みの検討や実践により、国民参加の森林づくりの一層の推進のため、センター職員一丸となって取り組んでいきたいと考えています。

今年も、知床森林センターの取り組みに対して、一層のご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。



(初冬の三峯)

今年「ねずみ」年！知床にもいろいろな「ねずみ」がいます。

今年の干支は十二支の中で1番目の年とされる子年です。

知床半島には8種類のネズミがいます。草原や森林にいるネズミで最も多いのは、冬場に樹皮を食べるエゾヤチネズミです。そう言われるとネズミは森林にとってあまり良い印象ではないかもしれませんが、エゾアカネズミのようにドングリやクルミなど木の実を収穫し土の中に貯蔵するものもいます。そして、食べ残されたり、忘れられたドングリはやがて芽を出すこともあります。

もともと「子」は「孳（ふえる）」からきていて、新しい命が種子に宿る様子を表しているそうですが、まさにネズミたちも知床の森をつくってきた一員といえるのではないのでしょうか！？



ノネズミの足跡

「ミズナラ堅果結実調査」 知床のドングリは6年ぶりの「豊作」！

当センターでは、知床半島の主要な樹種であるミズナラの堅果（ドングリ）の結実状況について、平成元年から毎年調査を実施していますが、今般、平成19年の調査結果がまとまりましたのでお知らせします。

- 1 調査地：知床半島の岩尾別方面とカムイワッカの滝に向かう道道知床公園線沿いのイタシュベツ地区の2箇所（25本のミズナラ）
- 2 調査時期：9月中旬～11月中旬（採取できなくなるまで）
- 3 採取方法：各調査木の下に、ドングリを受け止めるための寒冷紗（かんれいしゃ）で作った1m四方のトラップ（写真右）を1本当たり3箇所設置し、そこに落下するドングリを毎週1回採集。
- 4 算出方法：集めたドングリの個数・重量・長径・直径を計測（※一個ずつ計るのでとても根気のいる大変な作業！）集計し、樹冠面積に対する係数をかけて総個数を算出。

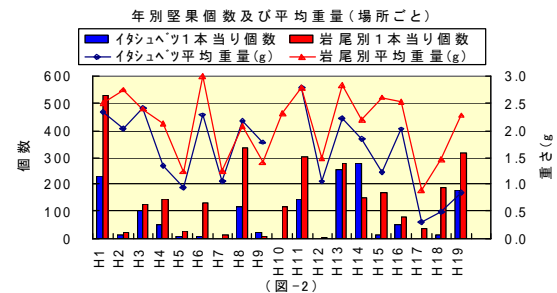
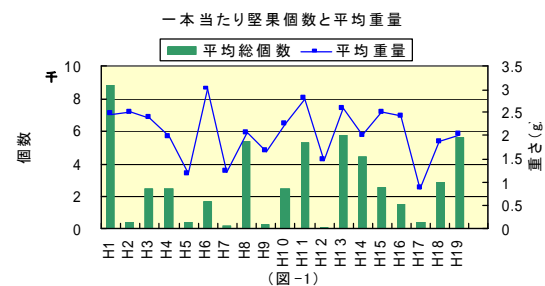


5 調査結果
ミズナラの堅果量は、平成13年の豊作以降少なめで推移していましたが、今年は6年ぶりの豊作となり、調査木1本当たりのドングリの数は平均5,577粒、ドングリ1粒あたりの平均重量は2.03グラムという結果になりました。（図-1参照）

また、地区別では、岩尾別と比較して知床岬に近いイタシュベツ地区の方が数は少なく、粒も小さいようです。（図-2参照）

この調査結果のほか、周辺のミズナラの状況など地域住民・関係者などの話を総合しても、今年は半島全体的にドングリは豊作のようです。

今年の冬は森林の中の動物達にとって、良い年越しができたことでしょう。



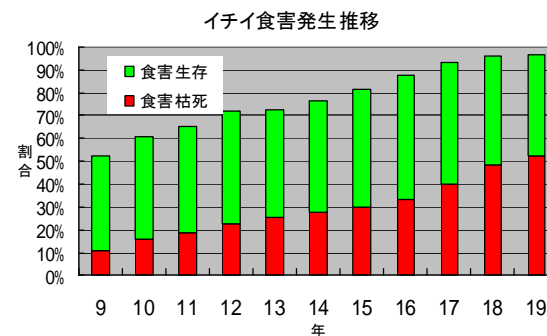
「エゾシカによる樹皮食害調査」防鹿柵設置で後継樹を育成に期待！

エゾシカの樹皮食害に関する調査として、平成9年よりウトロ地区の「イチイ遺伝資源保存林」で枯死状況などの調査を実施しています。

今年の調査結果は、右表のとおりです。

すでに半数近くが枯死していることから、今年はあまり被害の増加は見られませんでした。

現在、保存林の一部に防鹿柵を設置しており、今後は被害の防止及び柵内での後継樹育成に期待し、調査を継続していきたいと思ひます。



「知床永久の森林づくり協議会」仕組みづくり部会開催

「知床永久の森林づくり協議会」では、知床におけるボランティアや企業等多様な主体が参画した森林づくりや、森林環境教育を推進するため、その仕組み等について、より具体的な内容について検討をすることを目的とした「仕組みづくり部会」を各地で開催しました。

- 北見・網走地区
平成19年12月17日（月）北海道森林管理局北見事務所
- ★知床地区
平成19年12月18日（火）知床森林センター
- ★札幌地区
平成19年12月21日（金）北海道森林管理局



各地区の部会では、森林づくり体験や森林環境教育のプログラムやフィールドの具体化について、各委員から「知床ならではの取り組みが必要。」「関係機関や団体等との調整役として、森林センターの役割が重要。」など様々なご意見やアドバイスをいただきました。

今回の「仕組みづくり部会」で頂いたご意見等を整理し、協議会で更に検討し、より良い森林づくりに係るビジョンを策定していきたいと思ひます。

なお、第3回協議会は平成20年2月下旬に開催する予定です。

※「知床永久の森林づくり協議会」関係の資料は、北海道森林管理局のホームページに掲載しています。（<http://www.hokkaido.kokuaurin.go.jp/kāoku/>）

～「ボランティア等活動拠点施設」のお知らせ～

「知床ボランティア等活動拠点施設（仮称）」は、平成20年春のオープンに向けて斜里町ウトロ地区・国設知床野営場内で建築工事を開始しました。

当施設は、ボランティア活動の打合せや研修、情報交換・発信の場等として使用し、森林づくり協議会、NPO団体等や国民の森林づくり活動の拠点として利用していただくことを目的としたものであり、多くの団体等に有効に利用していただきたいと考えています。

なお、施設の具体的な内容や利用方法、申し込み方法等については、今後、当センターのホームページなどでお知らせします。



- 施設の概要
- 構造：木造平屋建て
 - 建築面積：約375㎡
 - （延べ床面積約320㎡）
 - 施設内容：レクチャースペース、会議室、休養室、倉庫・作業室等

（施設のイメージ）

知床森林センター11月・12月の活動

「斜里町生きがい大学」で森林学習講座 【11月1日(木)】

斜里町教育委員会が町内65歳以上の方を対象に開設している「斜里町生きがい大学」で、日本と知床の森林・自然について講義をしました。

65歳以上の受講生約130名の方々が熱心に聞いてくださり、質疑応答では地元斜里町の森林を充分理解された質問もあり、森林・林業・木材の役割・重要性、知床の自然の特殊性などが伝えられたと思います。

このような森林学習講座は、今後も随時実施していく予定です。



第69回 森とのふれあい「森の恵みで草木染め」 【11月3日(土)】

森林がもつ隠れた色、意外性やおもしろさを理解してもらおうと、木の実、落ち葉、樹皮など”森の恵み”を使って染めたオリジナルハンカチ作りを行いました。

当日は、4歳から74歳までの幅広い年齢の方々20名が参加し、参加者同士、「どの染料が一番綺麗?」「どのように模様付けをしたの?」など和気あいあいとした雰囲気の中、良いものを作ろうと真剣に取り組んでいました。

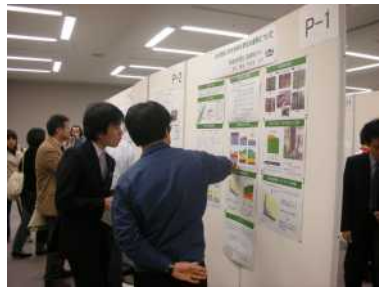
体験が終了すると「学校へ持って行って自慢する。」「こんど、家の周りの草木で試してみる。」などの声があり、日頃、森林にふれあう機会が少ない方々も森の恵みを感じることができたことでしょう。



第56回日本森林学会北海道支部大会への参加 【11月5日(月)】

札幌コンベンションセンターにて、大学や研究機関など多くの団体が集まり、研究発表、ポスター発表、シンポジウムなどが開催されました。当センターでは、昭和61年から続けている「択伐跡地における林分変化の推移について」のポスター発表を行いました。

ポスター発表では、来場者の殆どが研究機関や森林・林業に関わりある方が多く、専門的な質問やアドバイスを頂きました。今後の調査・研究に役立てていきたいと思えます。



第70回 森とのふれあい「森の恵みを使ってクリスマスリースを作る」 【11月18日(日)】

斜里町在住の古川範子先生を講師に迎え、毎年恒例となっているクリスマスリース作りを開催しました。

最初にトドマツの先葉を使ってリースの丸い土台を作り、その後で様々な種類のマツボックリ、ベル、リボン、造花などを飾り付け、約3時間で豪華なリースが完成しました。参加者からは、「手作りこんなにきれいに作れるとは思いませんでした。大満足です。」との感想が聞かれました。



冬のしれとこ



森林は雪に覆われ、冬の知床では真白に雪化粧した知床連山などの幻想的な景色を楽しむことができます。

静寂に包まれた森林のなか、キタキツネやエゾシカの群れ、天然記念物でもあるオオワシ・オジロワシの渡りや、雪上の足跡・羽の跡など、自然を観察するには魅力あふれる季節です。

この冬、森林センターでは、フレペの滝やオシンコシンの森林を「歩くスキー」で散策するイベントを開催します。海一面に広がる流氷や厳しい冬を生きぬく樹木の姿を観察しながら、そこに棲む生き物たちやその痕跡等、冬ならではの発見をしてみませんか?

※イベント予定については下欄お知らせをご覧ください。



知床の樹木 ナナカマド



ナナカマドは、バラ科ナナカマド属の落葉広葉樹です。初夏には、白い小さい花が多数集まって咲きます。

秋は、赤い実と紅葉が美しく、赤熟した実は鳥たちの冬の餌になります。

用途は器具、木炭、樹皮は染料、薬品(下痢、膀胱疾患に効果ありと言われていています。【北海道薬草図鑑より】)になります。

知床は今



知床で向かえる初めての冬がきました。

通勤途中から見る斜里岳は雪で真っ白になりその姿は人を寄せ付けない雰囲気さえあります。

知床半島及びその周辺には日本百名山にあげられている羅臼岳と斜里岳があります。その他にサシルイ岳、オッカバケ岳、知円別岳、硫黄山などがあります。サシルイ岳等は登山口が無く、羅臼岳の羅臼平からの縦走ルートしかありません。

今年の目標は、体を鍛え雪が融けたら知床半島に連なる山々の頂に立ちたいと思います。(須)

1月～3月のイベントのお知らせ

実施年月日	イベント名称	場所	申込み時期
平成20年1月12日(土)	親子ネイチャークラフト体験	森林センター-2F	定員次第〆切
平成20年2月14日(木)	静寂の知床の森を歩くスキーで散策しよう	オシンコシンの森林	1月中旬～
平成20年3月9日(日)	早春の知床!エゾシカ集うフレペの森を散策しよう	フレペの滝周辺	2月中旬～

詳しくは知床森林センターHP(<http://www.shiretoko.go.jp/>)が電話でご確認下さい。

この広報誌は道産間伐材を使用しています。